

ふくしのフッフ

創刊号 2018.6

さあ、
ふくしの
出番だ

写真：羽鳥 隼平さん

10日間の新任研修を終えて

【特別養護老人ホームサンクスレルヒの森:配属】

ふくしのフフフ

いろんなフフフがふくしにはあふれている。
決して作られたものではなく、自然と湧き出ている。
どこかなつかしいような、なつかしくないような。

フフフだけでなくムムムかもしれません。
シンミリかもしれません。ザワザワかもしれません。
ときにはイライラ、ムカムカかもしれません。

笑顔だけがクローズアップされがちですが、ふくしはそれだけではありません。
とても人間的です。

人間的だから、よく分からない。
よく分からないから、知ろうとする。
知ろうとしても、つかみどころがない。

つかみどころがないから、問い続ける。

そんな魅力にあふれた現場の日常を伝えたい。
現場から、ふくしの魅力をディレクションしたい。

そんな思いから、みんなでききるは広報誌を発行することにしました。

もう一つ。

職員の方にもぜひ読んでもらいたいと思っています。
もらいたいではなく、読みたくなるものをつくっていききたい。
職員の顔や姿をたくさん出していくこと。

胸をはって身内を自慢したいです。

羽鳥 隼平さん



—創刊号の表紙を無理やり飾らされ—

—ねえ、いまどんな気持ち？

羽 いや～めちゃくちゃ恥ずかしいですよ...いいんですか？

先輩たちを差し置いて.....

—良い感じで前を向いていると思いますよ。仕事に対する
気合が感じられますね。

羽 研修を終えてと書いてますけど、これ5日目の若竹寮の
場面ですよ。あたかもそれっぽい写真ですけど。普通に
児童養護施設のイメージを言っただけですよ(笑)。

—まあ、いいじゃないですか。なんかいい感じだし。とこ
ろでどうですか、実務について早2カ月。

羽 あっという間でしたね。学ぶことが多くて、毎日が刺激
的です。早く足手まといから脱却したい一心です。やっぱ
り先輩たちは凄いですよ。それに比べて、本当にぎこちな
いですよ。私の動き。

—間接的に、媚び売ってますよね。

羽 いやいや...本心ですよ!!!

—秘める思いは、メガネぐらいじゃ隠せませんよ。

羽 勝手に私のキャラ、作ってません？

—どうしてもいじりたくなっちゃんですよ。去年の就職
フェアのときに真っ先にうちのブースに来たじゃないです
か。私も入社したばかりでそれが嬉しくて。

羽 確か、そんな話をしてました。まだ、みんなでいきるの
ことをよく分からない人に騙されたわけですね(笑)。

—今度は、羽鳥さんが騙す番ですよ(笑)。7月のインターン
シップフェア、よろしくお願いします。秋葉原で学生が待
ってますよ。

羽 ありのままを伝えますよ。

—牛を片手に。

羽 どうしても牛は必要ですかね～？

—動物の支援も始めるじゃないですか。まさにありのまま。

羽 牛は普通に飼わないですよ。犬や猫ならなんとなく...
人前で話すのも自信ないんですよえ～。

—50人ぐらいはブースに来てくれるいいな。

羽 全体で何人ぐらい来るんですか？

—220人ぐらいかな？

羽4分の1。本当に牛で呼
べると思っているんですか？それ
以前にそんなに大勢の前で...

—大丈夫！ちゃんと観客席でニ
ヤニヤしながら応援しているよ。

羽 見つけたら牛投げ
ますよ。

※文章には多少の脚色があります。



わたしたちのフッフ vol. 1

みんな大好き！小林係長

介護老人保健施設サンクス米山で介護係長を務める小林さん。介護実務に加え、現場の管理と大忙し。日々の実務や仕事に込める思いを聴いてみました。

話し手：小林 貴志 聴き手：坂野 健一郎



新任研修を終えて

——小林係長はどこかで職員の教育担当の経験をしたことがありますか？

小 いや〜、ないですね。今、実習生の受け入れ担当をしているぐらいかな。それも昨年度がはじめてで。

——新任研修で本当に助かったんですよ。プログラムの調整や、不足している資料のチェックまでしてもらって。とても良い流れで、10 日間の新任研修を終えることができました。

小 今年度は、サンクス米山に新任は一人も配属されず...早く米山への異動希望を出してもらえよう頑張りました(笑)。

——ポツポツ出てきそうですね(笑)。そのくらい今回のプログラムの流れや、それぞれコマを担当する講師の調整が素晴らしかったですよ。係長自体、新任との関りが自然体で。最後、よく分からないポーズで写真を撮って終わりましたよね。

小 そうでしたね(笑)。普通に接しているだけですが、親近感を持ってくれたみたい。こっちも楽しかったし、勉強になりましたよ。講師を担当してくれた職員も張り切って。モチベーションが上がったようです。

——私も全部のコマに出ることはできなかったのですが、誰一人面倒くさそうに対応していなかったですね。

小 予行練習までした職員もいましたよ。現場が現場を育てなきゃという意気込みが感じられて頼もしかったです。

——いつでも研修担当変わりますよ(笑)。新任に限らず高校生の職場体験や、実習生、施設見学者など、多くの方が最終日の別れを名残惜しそうにしている姿を見ました。居心地良く、学びを得られる環境が整っているのかなと思いました。

小 米山全体として、その雰囲気ができているのかな。古き良きとは違う適度な接し方と言いますか、フレンドリーといえますか。

——そのさじ加減って難しいですね。

小 支援の場面でも、日々研究しています。確かにご利用者

の方はお客様ですが、それだけでは片づけられないエッセンスがあると思うんですよ。うまく言葉にできなのですが、ずっとお客様ってなんか居心地悪くないですか？

——悪いですね。飲み屋でも常連になると金は払うんだけどよく分からない関係になってきますし、それが普通だと思います。

いろんな関係性

小 その人と人との関係性は、時間で解決することもあるしそうでもない時もある。だからこそ一律でお客様という冠をつけるんじゃなくて、向き合うことが必要だと思います。現場の職員に対しても。

——だからこそ、米山ではカフェや流木など面白い取組みが始まるんですね。これは、後で聞いてみたいと思います。確かに今回の新任研修でも、一応小林係長は教える側だったのですが、積極的に話しかけて今の流行など教えてもらっていましたよね。

小 単純に知りたいから(笑)。若手が知っていて、我々が知らないこと、言い換えると敵わないことなんてたくさんありますよ。



裏方として新任職員研修の様子を撮る小林係長を撮った写真

サンクスカフェ いこさ

サンクス米山では、ご利用の方や職員の憩いの場として、定期的にカフェを開いています。



——年々、実感しています(笑)そういった意味では立場として係ることと、人として係ることの区別は職員同士でも意識しないとですね。扱いやすさを求めている限り、優秀な部下は現場には入ってきません。自分を超えられると困るから。

小 感情として分からなくもないですが、そんなことが続けば業界全体に益々人が来なくなりますよ。コマじゃないんですからね。

——福祉人材を育てると言いつつ現場では意外とダブルスタンダードも多いのかなと。その点で話は戻りますが米山では若手からの企画がどんどん出てきていますね。

小 我々ぐらいになるとカフェなんて発想、出てきませんから(笑)。素直に凄いなと。あったらいいじゃなくて、実際にやっちゃうところが米山の特徴ですかね。

——開所日に行けなくて残念でした。ざるで作ったくす玉も、よくあんなアイデアが生まれますよね。

小 そうなんです。アイデアも出しやすいんじゃないですかね。みんな、良いことは面倒くさがらずに楽しみながらやりますから。

チャレンジがチャレンジを生む

——あの～、小林係長は知らないかもしれませんが、昨年の12月にリハビリ職の会議があったんですよ。その中で、今年度の行事候補として一番最初に釣り大会って書かれていて。そのことを皆さん、真剣な面持ちで話し合い...そのシュールさが面白かったんですよ。ふざけたことを真面目に考えてみる。個人的にヒットで、今後の事業計画を立てるときの姿勢としていいなと思ったんです。

小 それはそれは。本当にやるのかな。やっちゃうんだろうな。

将来的には間違いなく(笑)。

——良い意味でイカれている(笑)。太田部長もアセスメント力を磨く新たなプログラムを考えていたり、高橋副施設長も流木を磨きて～って言ってました。

小 そんな中で、私はニュートラルでいることが役割だと認識しています(笑)。

——いやいや、新任研修の最後の写真なんて、中々でしたよ(笑)。特に身体が反り返った角度が。この写真、ことあるごとに使わせてもらいます。

小 本当は、眼鏡でボケようと思ったんだけど瞬間的に思いつかなくて。次年度の研修まで取っておきます。でも、我ながら嬉しそうな顔をしていますね。

——やっぱり法人全体の研修担当になった方が良いんじゃないですか？

小 なっちゃおうかな。みんな、米山に呼んじゃう(笑)。

——振り返ると、小林係長の実務と仕事に込める思い、何も聴かずに終わっちゃいましたね。



発砲スチロールの中身は？

特別養護老人ホームサンクスレヒの森で見つけた不思議な発砲スチロール。職員玄関脇におもむろに置かれた箱からは何やら青々とした植物が生えています。

なんとこれは、魚沼産コシヒカリ!!

しかも、土まで魚沼産。このこだわりようとシュールさに完敗です。当日、施設見学に来ていた学生さんも思わず写メをとっていました。かかしもお手製です。

塚田施設長曰く、『いずれ、舗装されたアスファルトがどんどん耕されていくかもしれませんよ。』とのこと。



特別養護老人ホームサンクスレヒの森

〒943-0893 新潟県上越市大貫 2 丁目 16 番地 23 号 TEL:025-530-6200

かつては鳥居があったことも。なかなかぶっ飛んでいます!!



生活介護事業所とも

〒942-0074 新潟県上越市石橋 2 丁目 10 番地 16 号

TEL: 025-546-7812

4 月に開所したばかりです!!新築の香りがします。



日本財団チャリティー自販機の設置

生活介護事業所とも に日本財団チャリティー自販機が設置されました。これは公益財団法人日本財団様が実施する飲料 1 本につき 10 円を 5 つの社会貢献活動に寄付できるプロジェクトです。自販機のデザインに使われた絵は上越市在住の馬場悠斗(はると)さんの作品。悠斗さんの作品は多くの展示会で出展され、今後は商用化なども考えていきたいとのこと。

これから暑い季節がやってきます。どんどん飲み物を買いにきてください!!

理事長ってどんな人? —なんでも答えます—

—理事長、みんなが理事長のコト、知りたがっていますよ。普段何やっているかもよく分からないのですが、長くなりそうなのでとりあえず好きな食べ物とか聞いてもいいですか?

理 えっ……。そこから。なんだろう。

—じゃあ、嫌いな食べ物は?

理 早いな。ないかな。

—はい。今回、もういいですわ。ありがとうございました。

理 えっ、好きな食べ物はいいの?もう少ししゃべらせてよ。

—十分、理事長のことをみんなも分かったと思いますよ。

理 いやいや、どう考えてもわからないでしょ。なんか、今考えている事業展開とか法人理念に込める思いとか。そういった核心をついた質問はないの?

—毎日、日光を浴びなさいぐらいしか言わないじゃないですか。今年度の新任、真に受けて眠たい目をこすりつつ毎朝

早起きしているんですよ。

理 とてもいい心構えじゃないか。次はマインドフルネスだな。とらわれのない状態で、今、この瞬間を……………

—(無視)では、また次回。



渾身の 1 枚『桃が好き』

理事長 大島 誠



若手福祉従事者交流会

ふくしのフフフ

去る 2018 年 5 月 19 日(土)に若手福祉従事者交流会『ふくしのフフフ』を開催しました。福祉の現場に従事して 3 年以内の方を対象に日頃の業務を通じて現場の魅力について語り合いました。初の取組みでしたが、上越市内の福祉事業所を中心に 11 名の若手職員と 10 名の先輩職員が参加しました。

同じふくしの職場と言えども、実務や人材育成の仕組みなど違いがあるんだなど。やりがいや楽しさ、それぞれが抱えている悩みなどを共有しました。初回ということもあり、先輩職員による話の時間を長めにとりましたが、徐々に若手中心の会にしていきたいと思えます。

こうした取り組みを重ね、『福祉人材が育つまち上越市』をつくっていけたら。

みんなでいきるだけでなく、いろんなところにいろんなフフフを広めていきたいです。そんなわけで、この広報誌も手作り感満載ですが年に 3 回ぐらい出そうと思います。